

当院における無痛分娩について

当院ではご本人が希望される方に限り硬膜外麻酔を行い、陣痛の痛みを和らげるようにしております。

◎硬膜外麻酔

局所麻酔後に腰の椎体の間から約1mmの太さのカテーテルを硬膜外腔という場所に挿入します。【図1】

そのカテーテルから低濃度の麻酔薬を注入します。この麻酔は【図2】に示す部位の痛みを取り除く効果があります。

図1

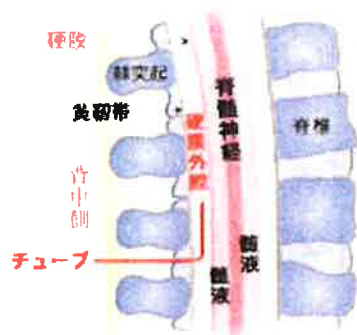
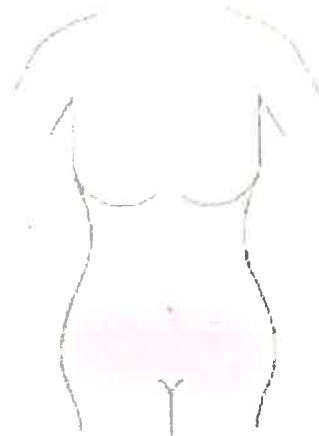


図2



カテーテル挿入時期は入院時に行い、子宮の出口が5cm開大してからの薬の注入をおこないます。(痛みが我慢できない程強い場合はその前におこないます。)

〈硬膜外麻酔の長所〉

- ① 痛みの神経は麻痺しますが運動神経は比較的保たれるので、いきむことができ、お産をしているという実感があります。
- ② 痛みが軽減されることにより体力を消耗せず、精神的に余裕がもてます。そのため産後の疲労回復も早いと言われています。
- ③ 痛みの神経だけに作用するので、赤ちゃんには影響ありません。
- ④ 妊婦さんの産道の緊張を取り除くので、産道の裂傷が起こりにくい。また、傷の縫合も痛くありません。

〈硬膜外麻酔の短所〉

- ① 麻酔領域の血管の拡張と筋弛緩作用のため血圧が低下したり、陣痛が微弱になることがあります。そのため陣痛促進剤の使用が必要となります。
- ② 微弱陣痛になるため吸引分娩の可能性が高くなります。
- ③ 麻酔後に嘔気や頭痛、発熱などの副作用がおこることがあります。
- ④ 麻酔による運動神経麻痺により歩行が困難になることがあります。

当院の無痛分娩は基本的には計画分娩になります。（日にちを決めて誘発分娩）陣発や破水など急遽行うこともあります。

来院時、お産が進んでいたりすると麻酔をする間も無くお産になってしまうこともあります。希望者の方でも夜間及び休日など、麻酔が出来ない場合がございます。あらかじめご了承ください。

無痛分娩の費用につきましては、ホームページをご覧ください。
また、無痛分娩をご希望の方は、34 週までにお申し出下さい。
何かわからない事がございましたら医師にお尋ね下さい。

無痛分娩同意書

久保田産婦人科病院

私は無痛分娩を受けるにあたり、下記医師より無痛分娩の説明書をもとに説明を受け、その内容について十分理解しました。

その上で無痛分娩を受けることに同意します。

説明医師 **久保田 一郎** (印) (年 月 日)

患者氏名 _____ (_____ 年 _____ 月 _____ 日)

代理人氏名 _____ (_____ 年 _____ 月 _____ 日)

久保田産婦人科病院